

No.	委員からの質問・意見	事業者回答	委員からの再質問・意見	事業者回答
1	騒音対策や動植物など生態系への配慮がしっかりなされている印象を持ちました。 セトウチサンショウウオを複数の施設に分散管理してリスク分散しているのはその一例です。 法面に吹き付けた種子ですが、地域環境に適した在来種を選んでいらっしゃるのでしょうか。なるべくそのようにしていただけるとよいと思います。	法面緑化については、本編74頁のとおり、ネッコチップ工法及び種子散布により実施しました。種子散布による緑化については、早期に植生を創出するため、イトコヌカグサ（外来種）、オオウシノケグサ（国内外来種）、ギョウギシバ（在来種）を選定しています。選定に当たっては、「神戸らしい緑化ガイドライン」に示される、神戸らしい緑化にふさわしくない植物種を使用しないようにしています。	緑化の際の種子や樹種の選定には、なるべく地域環境に適した在来種を優先的に選定してくださることを望みます。（回答不要）	—
2	本編10頁、表1.7.2の大気質（二酸化窒素、浮遊粒子状物質）では調査期間が11月～翌年1月になっているが、4月～翌年3月（通年）ではないでしょうか。令和3年度を含めて見直して下さい。 （事務局追記：事後調査計画書においても ・事後調査の工程（計画）：建設機械台数最大時、期間中1回実施（11月～翌1月） ・事後調査の内容（実施内容）：大気常時監視局で通年（4月～翌3月）と記載されておりました。実際にあわせていただければと思います）	影響が最大となる時期を示しておりましたが、ご指摘いただいた通り、調査は年間の結果をとりまとめましたので、その他の項目を含めて修正いたします。	—	—
3			資料編も拝見しましたが、セトウチサンショウウオがなぜ造成した大きなビオトープではなく簡易のプラ池のみで繁殖しているのかよく分かりませんでした。 ビオトープで繁殖できない理由があるのでしょうか？	保全ゾーン① [] はセトウチサンショウウオが生息している [] から遠方であり、その間は工事中等によりほぼ隔離されている状況にあります。また、保全ゾーン②は令和7年の夏頃に完成予定です。セトウチサンショウウオの産卵場所の確保のため、これまで繁殖実験池、簡易ビオトープ、FRP製水たまりを設置する等、 [] の整備を実施してきました。その結果、整備した [] は継続した繁殖が確認されています。